

太田フィルハーモニー交響楽団

# 第17回 定期演奏会

# ota philharmonic orchestra

2014年11月16日(日)

開演14:00

笠懸野文化ホール・パル

主催：太田フィルハーモニー交響楽団

後援：太田市教育委員会

## 【ご挨拶】

本日は、太田フィルハーモニー交響楽団の演奏会にお越し頂き大変ありがとうございます。今日は、ベルリオーズの軽快な序曲と、交響曲を2曲お聴きいただきます。

指揮は、昨年の秋に続き、直井先生をお願いしています。先生には様々なご指導をして頂いていますが、練習風景の一端をちょっとご紹介します。

たとえば、今日演奏する2つの交響曲のうち、ハイドンの楽譜は、多くを語らず、反対に、チャイコフスキーの楽譜はたくさんの情報が書いてあります。

演奏者にとって、楽譜に情報が少ないハイドンの曲の方が大変です。情報が少ない分、自分で曲を理解し、他のパートを聴き合い、空気を読んで演奏する必要に迫られます。こんな時は指揮者の解釈、助言が大きな道標（みちしるべ）にもなります。これは朗読に例えると分かりやすいと思います。上手な朗読家は、もちろん文章にそんな指示が記されているわけではないのに、抑揚や強弱を上手につけ、適度に間をとり、読む速度も緩急をうまくつけます。そうすることによって聞き手は物語の情景を鮮明に頭の中に描くことができます。さてさて、今夜は、太田フィルの団員の技がハイドンの描いた「軍隊」を皆様の頭の中に蘇らせることができるかどうか・・・？

一方、チャイコフスキーは強弱ひとつとってもpppからfffまで詳しく楽譜に指示されています。ですから、楽譜に記載された豊富な指示に従い自由に歌えば、ある程度はチャイコフスキーが意図した音楽に近づきやすいイメージです。こんなお話も練習の中で先生にご指導をして頂いています。

さて、そろそろ演奏者も舞台袖でワクワク、ドキドキしている頃です。どんな演奏になることやら・・・。どうぞ、今日もお楽しみいただければ幸いです。

太田フィルハーモニー交響楽団  
団長 大竹 実

## 【プロフィール】

指揮 直井 大輔



1971年東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学部器楽科でトロンボーンを前田保氏に、バス・トロンボーンを井上順平氏に師事。在学中から指揮者を志し、指揮法を山崎滋、エンリケ・マッツォーラ各氏に師事。1993年より巨匠ウラディーミル・フェドセーエフ氏と親交を持ち、指揮の手ほどきやアドバイスを受けている。

1997年、東京芸術大学音楽学部指揮科入学。指揮法を故佐藤功太郎、小林研一郎、ハンス・マルティン・シュナイト各氏に師事。同年、新国立劇場オープニング公演ワーグナー「ローエングリン」のアシスタントを務め、以後、二期会オペラ等の副指揮者として故佐藤功太郎、故若杉弘、故岩城宏之、他各氏の下で多くのオペラ製作に携わるとともに、ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー氏による東京芸大『世界のマエストロを迎えて』シリーズ第1回公演にて、ハイドン「四季」の合唱指導アシスタントを務めた。全国4つの国公立芸術大学が参加する合同オーケストラ等の公演に3年連続出演、台東区旧奏楽堂「木曜コンサート」にも二度にわたって出演し、指揮者を務めた。藝大フィルハーモニアによる学内演奏会では、ラヴェル「ダフニスとクロエ第二組曲」を指揮し、小林研一郎氏に『オーケストラから素晴らしい響きを見事に引き出した』と絶賛される。杉木峯夫氏（東京芸術大学名誉教授、紀尾井シンフォニエッタ

東京アドバイザー）の推薦により、大学等地域開放特別事業『吹奏楽を楽しむ』演奏会の指揮者を務め、練習風景からのその模様は、NHK ラジオ、新聞、CATV、雑誌などのメディアを通じて報じられている。

早川和子氏の新作オペラ「師門物語」で指揮者に抜擢されデビュー。2003年、秋篠宮妃殿下、内親王殿下ご臨席のオーケストラ演奏会で指揮者を務めた。

2004年度、東京芸術大学音楽学部非常勤講師。別府アルゲリッチ音楽祭「子供のための無料コンサート」に出演。藝大シンフォニカ英国公演にも同行した。岐阜県指定有形民俗文化財「かしも明治座」にて行われた公演で東京芸大の教授陣と共演し、その模様は読売新聞日曜版のトップ記事に掲載された。また附属高校オーケストラの指導でも認められ、2005年度には同大音楽学部附属音楽高校非常勤講師を務め、定期演奏会でストラヴィンスキー「火の鳥」などを指揮し、大成功をおさめた。

広島交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉などをはじめ、各地の演奏団体に多数招かれており、その活動は各方面で好評を博している。千葉市音楽協会会員。

エクトル・ベルリオーズ／序曲《ローマの謝肉祭》Op.9

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン／交響曲第100番 ト長調《軍隊》

第1楽章 Adagio. Allegro

第2楽章 Allegretto

第3楽章 Menuetto. Moderato

第4楽章 Finale. Presto

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー／交響曲第5番 ホ短調 Op.64

第1楽章 Andante-Allegro con anima

第2楽章 Andante cantabile, con alcuna licenza

第3楽章 Valse: Allegro moderato

第4楽章 Finale: Andante maestoso -Allegro vivace

## 【曲目紹介】

### ベルリオーズ／序曲《ローマの謝肉祭》Op.9

ベルリオーズは19世紀フランスの作曲家で、クラシック界では標題音楽というジャンルの代表格である『幻想交響曲』で名高い存在です。この曲によって20代にして大きな成功を収めた彼はその後様々な作品を世に問うことになるのですが、例えば演奏者約1000人も必要な曲を作曲・演奏して（演奏会自体は大成功だったものの）儲けが出なかったり、自作の斬新さが聴衆に理解されずに不評に終わったりと、順風満帆とはいかず、資金難に苦しむことも多かったようで、作曲以外の特技である音楽評論で原稿料を得て耐え忍ぶ、ということもあったようです。

本日演奏する序曲「ローマの謝肉祭」も元々は初演が不評に終わった自作オペラ『ベンヴェヌート・チェッリーニ』から2つの場面を抜き出して管弦楽に直したものです。オペラとは違って初演に成功し、その管弦楽法の見事さもあって今日でも比較的よく演奏される曲となっています。前半の穏やかな曲調で朗々と奏でられる旋律は、オペラの主人公とヒロインの愛のアリアで、後半は賑やかな謝肉祭（カーニバル）の場面となります。喧騒から少し離れたところで再度愛のアリアが顔を出しますが、祭はいよいよ盛り上がり、最後まで突っ走ります。（解説 齋藤）

### ハイドン／交響曲第100番 ト長調《軍隊》

本日の2曲目は「交響曲の父」と称されるハイドンの交響曲第100番「軍隊」です。作曲は1793～94年、ハイドン61歳頃の作品で、94年3月にハイドン自身の指揮により、ロンドンで初演されました。「軍隊」の名の由来は、2楽章と4楽章に当時のトルコ（オスマン・トルコ帝国）の軍楽隊で使われていた大太鼓・シンバル・トライアングルが入り、軍楽隊風になっているから、とされています。（当時のヨーロッパではこれらは楽器としては使われていませんでした）当時のヨーロッパから見れば、トルコ帝国は強力な軍隊を持つ「恐るべき侵略者の国」と同時に独自の華やかな文化を持った「憧れのエキゾチック大国」でもあったので、「トルコ風」を取り入れるのは当時の流行の最先端だったのです。（トルココーヒーなんかも愛飲されていたようです）

第1楽章は非常に優雅、かつオーソドックスな構成で、軍楽隊は後方待機です。ちょっと眠くなるかな、という優しい第2楽章で新兵器、クラリネットと共に軍楽隊が登場し（ハイドンは「驚愕」「時計」など、緩徐楽章に特徴のある曲を入れることが多い）、2ndトランペットの突撃ラッパが鳴り響くと、いよいよ進軍開始です。

第3楽章は流麗なメヌエットで軍楽隊は再び待機、そしていよいよ決戦の第4楽章です。8分の6拍子のプレストですので、とにかく速い。8分音符を機銃のように撃ちまくらなくてはなりません。（大変ですが、弦楽器奏者としては燃える部分でもあります）最後はパワー全開の軍楽隊が加わり、華やかなフィナーレを迎えます。

今日の軍楽隊は、大太鼓を何でたたいているのでしょうか？ 本番での楽しみです。

<ある奏者のひとりごと>

ハイドンの曲は、実はとても難しいんだよ。寄木細工みたいな精緻さが必要だから。強烈なテーマとか、ここ一番の見せ場が無いから、とにかく正確に弾いて、全体のアンサンブルをピシッと決めないと、何がやりたいのかわかってもらえないという怖い曲。

だからオケのトレーニングには良いんだけど、その分、練習は大変だったぜ。

今日は本番だよな。「粋」と「洒落さ」がウリのハイドンだから、必死さは出ない方が良いんだろうけど、4楽章だけは許してくれ…（解説 神戸）

### チャイコフスキー／交響曲第5番 ホ短調 Op.64

チャイコフスキーは19世紀に活躍したロシアの作曲家です。チャイコフスキーの音楽の特徴は、何と言ってもロマンティックで美しい旋律で、「白鳥の湖」、「くるみ割り人形」、「ピアノ協奏曲第1番」など、誰もが1度は聴いたことのある名曲を何曲も残しました。

今回演奏する交響曲第5番は、チャイコフスキーが48歳の時に作曲されました。この曲は、覚えやすいメロディや、わかりやすい構図（第1楽章の暗いメロディが第4楽章で壮大なクライマックスになるところが「苦悩から勝利へ」と良く言われています）が特徴的で、その後作曲される交響曲第6番「悲愴」と並び、非常に人気の高い曲です。

この曲が初演された時、曲を聴きにきた聴衆からは拍手喝采でしたが、チャイコフスキー自身は「大げさで不誠実」と言ってあまり気に入っていませんでした。しかし、何度も演奏会を重ね大成功を納めていくうちに、チャイコフスキー自身もこの曲を気に入り自信を深めていったと言われています。

#### <第1楽章>

冒頭にクラリネットが暗い旋律を奏でます。この旋律は「運命の動機」と良く呼ばれており、全楽章を通じて形を変えながら何度も出てきますので、よく覚えておいてください。序奏が終わると、弾むような第1主題がクラリネットとファゴットで演奏されます。この主題に色々な楽器が重なり、だんだんと盛り上がっていきます。その後、非常にロマンティックな第2主題がバイオリンにより演奏されます。2つの主題が繰り返し演奏され、最後は低音で沈むように曲が終わります。

#### <第2楽章>

弦楽器で静かにスタートした後、ホルンによるソロが演奏されます。この旋律はチャイコフスキーの中でも特に名旋律と言われており、甘くてロマンティックなメロディです。中間部はクラリネットの切ない旋律で始まり、だんだんと盛り上がっていき、第1楽章で出てきた「運命の動機」が金管楽器で激しく演奏されます。その後形を変えて先ほどの旋律たちが演奏され、最後はクラリネットが静かに曲を終えます。

#### <第3楽章>

チャイコフスキーはこの楽章にワルツを持ってきており、非常に特徴的でチャイコフスキーらしいと言われています。最初は優雅なワルツですが、徐々に細かいメロディが増え、騒がしく落ち着いた感じになっていきます。そして最後に「運命の動機」が暗い感じで登場し、最後は「チャンチャン」と力強く曲を閉めます。

#### <第4楽章>

曲の頭からいきなり「運命の動機」が出てきますが、第1楽章と違って変わって明るい雰囲気になっています。その後盛り上がっていき一旦は静かになりますが、ティンパニが一気にクレッシェンドし、非常に激しいメロディが始まります。その後は激しい感じのまま、木管によるコラル（賛美歌のようなメロディ）や金管による力強い「運命の動機」が現れ繰り返していくうちに、曲が急速に盛り上がり金管のファンファーレが現れます（一旦ここで全休止するため、曲が終わったと勘違いしてしまうことが多いのでご注意ください）。最後はすべての楽器で明るく高らかに演奏し、壮大に曲全体を締めくくります。（解説 高田）

# 第17回定期演奏会 出演者

## 1stヴァイオリン

大野 仁子  
狩野 幸子  
佐藤 英臣  
菅原 陽子  
多賀 春美  
◎田中 容子  
永山 友紀  
岡 研太郎 (賛助)  
川井田 剛 (賛助)  
坂口 昂介 (賛助)  
前原 完治 (賛助)

## 2ndヴァイオリン

内田 郁子  
♪加藤 紗智子  
工藤 美保  
小島 昭二  
櫻井 由佳  
田中 路男  
福永 司  
畦元 直大 (賛助)  
金澤 希美 (賛助)  
山上 純子 (賛助)

## ヴィオラ

♪饗庭 裕子  
横塚 清恵  
後藤 典子 (賛助)  
玉川 敦 (賛助)  
野村 洸太郎 (賛助)  
吉野 玲子 (賛助)  
渡辺 僚子 (賛助)

## チェロ

浅田 礼光  
神戸 敦  
古作 眞佐子  
♪齋藤 進午  
田代 ひとみ  
松浦 静子  
松島 千寿恵  
山口 美枝

## コントラバス

内田 幸延  
田代 克  
♪日戸 正敏  
梅澤 見晴 (賛助)

## フルート

上村 知道  
小池 淳子  
♪白石 真奈美

## オーボエ

関口 史子  
♪福島 彩  
松浦 京子 (賛助)

## クラリネット

大塩 孝  
桑原 淑江  
高田 和久  
♪和田 智加子

## ファゴット

飯塚 勇太  
♪菅沼 香澄

## ホルン

♪秋場 裕美子  
片山 智広  
星野 由樹  
前原 陽子

## トランペット

安藤 清輝  
遠藤 愛美  
♪大竹 実  
武田 倅奈  
川辺 昌一 (賛助)

## トロンボーン

♪木村 彰徳  
鈴木 義幸 (賛助)  
丸山 明日香 (賛助)

## チューバ

須藤 渉 (賛助)

## パーカッション

♪大川 智  
河内 泉  
武田 由美  
夏見 えみ (賛助)

## 指揮者

直井 大輔

◎ コンサートミストレス  
♪ パートリーダー

## ※過去の演奏会

年月日	演奏会	場所	指揮者	演奏曲目
2012.11.25	第15回定期演奏会	笠懸野文化ホール バル	新井 久雄	チャイコフスキー/交響曲第6番「悲愴」 ドリーブ/バレエ組曲「コッペリア」 ロッシーニ/歌劇「どろぼうかささぎ」序曲
2013.5.26	2013ファミリーコンサート	太田市新田文化会館 エアリスホール	金井 俊文	メンデルスゾーン/劇付随音楽「真夏の夜の夢」より抜粋 ポピュラーミュージック/ディズニーメドレー、ふるさと他
2013.11.17	第16回定期演奏会	笠懸野文化ホール バル	直井 大輔	ドヴォルザーク/交響曲第7番 ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第3番
2014.5.11	2014ファミリーコンサート	太田市新田文化会館 エアリスホール	水戸 博之	どこかで聴いたことがあるクラシック特集 グリーグ/ペールギュント組曲「朝」 ドヴォルザーク/交響曲第9番「新世界より」第4楽章、他

## 次回演奏会のお知らせ

日時：2015年5月17日(日)  
14時開演(予定)

場所：新田文化会館エアリスホール

曲目：オペラのアリアなど、よく耳にする  
名曲を演奏します。  
\*指揮者体験コーナーあります!  
(抽選で子供も大人も体験できます!)

## 団員(楽器経験者)大募集!!

太田フィルでは一緒に音楽を楽しむ仲間を募集しています。  
現在募集中のパートは、以下の通りです。

### ヴァイオリン、ヴィオラ、コントラバス、トロンボーン

練習日：毎週金曜日 午後7時～10時  
練習場所：葦川・休泊行政センター 他  
申し込み：下記お問い合わせ先にご連絡下さい。  
練習の見学大歓迎です!  
団費2,000円/月、学生500円/月

♪練習の様子をブログで紹介しています。  
下記のホームページから入れるので、のぞいてみてください♪

お問い合わせ先

電話：090-5819-1453 (梅沢)

URL：http://otaphil.symphonic-net.com/

E-mail：fwhv3343@nifty.com